地域子ども・子育て活動支援助成事業　実施報告書（別紙２）

団体名	ＮＰＯ法人 cotor

取組の名称	おやこ広場
実施場所	川崎市多摩区長沢 2-2-1　2 階
対象地域	麻生区・多摩区・宮前区
対象地域の特色・課題	□特色 　対象地域である多摩区、麻生区は、神奈川県でも東京寄りで、小田急線、南武線を利用した都内へのアクセスも良い街です。また、古くからの地域コミュニテイーがあり、神社での夏祭りやなど地域のイベントも盛んで、高齢者にも住みやすく、川崎市の中でも比較的生活水準の高い地域であると言えよう。 　その一方で、経済格差も大きく、目に見えにくい相対的貧困を孕んでいることが懸念される。 □課題 ・核家族化の進行や出産年齢が上がっていることで、サポート役となるはずの祖父母が高齢となり、身近な子育て経験者のサポートが受けにくい状況にある家庭が増えている。 ・夫婦共稼ぎ世帯の増加により、出産後約 1 年で職場復帰する母が多く、ママ友を作る機会がないまま復職してしまうため、ピア的な横の繋がりが少なくなっている。結果、相談先が公的機関や保育園に集中してしまう。 ・未所属児童の場合は、子の成長に伴い家庭だけの養育を持て余したり、母自身の時間が欲しいと思うものの、自身

	の都合で子を預けることに罪悪感を覚えたり、預け先が少ないことに困っている方が多い。 ・地域には、子育て支援センター等があるが、「いつ行っても人がいない」との話を聞く。気持ちを吐露する場や発散する場所がないとの理由から、母子だけで過ごすことに孤独感や孤立感、焦燥感などのストレスを感じ、養育意欲の低下や夫婦間のトラブルに発展することも少なくない。
取組の趣旨・目的	現状を解決するためには、保護者の多様な要望に応える保育施設の拡充や、保護者が抱える子育てに対しての様々な悩みに耳を傾け、保護者の負担軽減を図ることや、地域ぐるみで、子育てをする環境づくりが大切であると考える。 【おやこ広場】 ・地域子育て支援として、施設開放し、乳幼児や保護者が自由に遊んで過せる場所、気軽に親同士の交流が図れる場所を提供する。（cotori おやこ広場） ・利用者が手ぶらで気軽に来られるよう飲み物、おやつ、お尻拭き等を用意しているため、これまでは利用料 500 円を徴収していたが、前年度は本助成金を利用させていたあき無料で参加できるようになった。引き続き今年度もそのように致したい。 ・ボランティア等で保育スタッフを増やし、母が子と離れ、ホッとする時間を設ける。
実施内容・実施スケジュール	【おやこ広場】 □実施スケジュール 毎週月曜日　10：00～12：00 計 48 回 □実施内容 ・助成を利用し参加費（500 円）を無くした。 ・保育ボランティアスタッフを増やし、気軽に子育て相談ができるようにした。 ・コーヒーやお茶など、飲料を用意し、参加者がホッと寛げて、参加者同士が交流できる場作りをした。 ・ワークショップを開催し、参加者が様々なイベントに参加し、楽しめた。

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">イベント開催
2024 年 6 月 17 日 10：00～12：00　（リトミック）
2024 年 6 月 24 日 10：00～12：00　（体操）
2024 年 7 月 1 日　10：00～12：00　（工作）
2024 年 7 月 8 日　10：00～12：00　（体幹体操）
2024 年 8 月 19 日 10：00～12：00　（ロゼッタ作り）
2024 年 9 月 9 日　10：00～12：00　（体幹体操）
2024 年 11 月 18 日 10：00～12：00　（クリスマスリース作り）
2024 年 12 月 2 日　10：00～12：00　（正月飾り作り）
2025 年 3 月 10 日　10：00～12：00　（健康教育）</td></tr>
<tr><td>参加者の年代</td><td>0 歳～未就学まで</td><td>定員
（１回あたり）</td><td>5 ～10 組程度</td></tr>
<tr><td>実施頻度</td><td>週 1 回</td><td>活動日数
（年間）</td><td>48 日</td></tr>
<tr><td>スタッフ体制</td><td colspan="3">常勤職員 1 名
有償ボランティア 4 名</td></tr>
<tr><td>連携する団体・
連携の手法</td><td colspan="3">◆チラシを配布（NPO アイゼンさんのチラシに掲載）
多摩・麻生区の保育園・幼稚園・商店など４０ケ所以上
麻生区小中学校へ６０００枚のチラシ配布 年 6 回
◆WEB
Instagram、ホームページ、PRtimes 告知
◆行政（麻生区、多摩区役所）への案内
◆多摩区ソーシャルデザインセンターへの案内
◆子育てトータルサポートマガジン発行（月 1 回）
◆明治大学ボランティアサークル Links さんとの協働
◆ほっとスペース和さんとの「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」を協働実施（こども家庭庁）
◆長沢自治会夏祭りお手伝い
◆リンクママさん、子育て支援センター、子育てサロン等子育て世代が集まる場所へのチラシ配布</td></tr>
</table>

取組実施により見込まれた効果	・おやこ広場では 0 歳～未就園までの子を持つ保護者が集うため、同じ子育て世代同士で話をすることにより子育ての苦労や不安などを「共有」、あるいは「共感」を得ることができるため、子育て中の保護者の孤独感や孤立感を軽減し、育児への前向きな気持ちを支える効果があった。 具体的には、「保活」や cotori 以外の子育て広場の場所や、イベントなどの情報を交換し、「一緒に行こう！」と、その場でママ友ができたりしていた。 ・異年齢の保護者が集まることで、月齢の低い子の保護者が、近い将来の子育てのイメージが持てるようになった。 具体的には、「うちの子は食事中に立ち上ってしまう・・・」との悩みに、先輩ママさんが、「うちもそうだったよ！」と、成長に伴ってできるようになることや、働きかけの工夫などを教えてもらっていた。 ・保活や、子どもの遊び場、便利グッズ等、保護者同士の情報交換の場になっていた。 　cotori では、「ティータイム」を設けており、飲み物やおやつを用意しているが、子ども用のお菓子は、できるだけ無添加のものや手作りを用意している。保護者からは「これはどうやって作るのですか？」「この無添加のお菓子はどこで買えますか？」など、自然と会話が生まれ、また食に関する興味にも繋がっていた。 ・広場には保育士が常に配置されているため、その場で子育ての相談に応じることができるため、保護者の困り感や不安感に寄り添うことができ、虐待の未然防止に繋がることがある。大概は「こどもと一緒に来られて楽しい」というポジティブな親子が多いが、時には疲れた様子で来られる方もおり、保育士が声をかけると家庭での様子をポツポツ話しされることもあった。母子分離の時間を確保するため、当施設の「こども誰でも通園制度」や「一時預かり」のご利用をお勧めし、母の体調回復のための時間を作ることができた。また、定期通園することで、その後の母子の状況を見守ることもでき、虐待未然防止の一助となっていると感じている。 ※他、活動の様子は　https://cotori.org/hiroba/　参照